

〔学会〕

第893回千葉医学会例会
第28回肺癌研究施設例会

日 時：平成6年1月22日

場 所：JR千葉駅ビル6階ペリエ大ホール

1. エトポシドが原因として疑われた間質性肺炎の1例

大滝雅之, 多部田弘士
(船橋市立医療センター内科)

症例は、57歳女性。平成5年1月に卵巣癌にて両側付属器切除を施行した。同年3, 4, 5月にCBDCA, CPA EDXの全身投与を行い、6月下旬よりエトポシド25 mg/dayの経口投与を開始した。8月下旬より全身倦怠感、咳嗽、呼吸困難が出現し、胸部X線上前間質性肺炎像を認めた。臨床経過よりエトポシドが原因と疑われた。治療はソルメドロールのパルス療法が奏効した。以後慎重な経過観察が必要と考えられた。

2. 特発性血小板減少症を合併した間質性肺炎の1例

渡辺 哲, 溝尾 朗
(千大・肺内)

ITPにて治療中、間質性肺炎を発症した51歳の女性。咳嗽、喀痰を主訴とし胸部X線写真上、間質性陰影を指摘され当科入院した。TBLBで間質性肺炎の診断を得、開胸肺生検にてDIPと診断された。DIPはUIPに比べ予後およびステロイドに対する反応性が良好であり鑑別診断を行う上で開胸肺生検は極めて有用と思われる。

3. 抗トリコスポロン・クタネウム抗体陽性の夏型過敏性肺臓炎の1例

梅岡 誠, 斎藤嘉一郎
(千大・肺内)

抗トリコスポロン・クタネウム抗体陽性を呈した典型的夏型過敏性肺臓炎の1例を経験した。患者宅より、トリコスポロン・クタネウム抗原が検出され、帰宅誘発試験にて、症状再現を見た。

精神分裂病のため、ステロイド剤は使用せず、抗原回避により自然軽快した。

4. 間質性肺炎に対してステロイド治療が奏効したシェーグレン症候群(SjS)の1例

安藤拓志, 山田嘉仁, 内山隆司
(千大・肺内)
廣島健三 (同・病理)

52歳女性、健診にて胸部X線異常陰影を指摘された。SjS+RAに間質性肺炎を合併し、細気管支、肺泡領域へのTリンパ球の浸潤を認めた。今後はSjS合併肺病変での浸潤リンパ球の解析が重要と考えられた。

5. インターフェロン治療開始直後に間質性肺炎を発症した1例

新井康弘, 水谷文雄, 桜井 健一
杉岡充爾, 鶴沢秀徳, 古川洋一郎
金子作蔵 (国保成東・内科)

51歳、女性。C型慢性活動性肝炎に対しインターフェロンα投与開始後11日目に間質性肺炎を発症した。本例は小柴胡湯の投与歴がなく、LST陰性であり、インターフェロン単独の作用によると考えられた。治療にステロイドの大量療法が有効だった。

6. 急性肺水腫及びMRSA肺炎を併発した重症呼吸不全の1例

中村 晃, 安藤拓志, 大西洋一
斎藤正佳 (千大・肺内)

前立腺癌の治療後、肺水腫をきたし引き続いてMRSA感染を起こした1例を経験した。喀痰のグラム染色は起炎菌の同定および治療効果の判定に有用であると思われた。